

中学校 外国語科（英語） 学習指導案

指導者 山田 佳代子

日 時 令和6年11月29日（金） 第1限 9:30～10:20

場 所 第1研修室

学年・組 中学校3年B組40人

単 元 気持ちを読み取る

Unit 7 Tina's Speech

Here We Go! 3（光村図書）

目 標 お別れの挨拶を読んで、話し手や書き手の気持ちを読み取り、気持ちを伝える工夫を理解することができる。

1. 疑問詞＋to＋動詞の原形や If…の仮定法を用いた文の構造を理解している。

（知識及び技能）

2. 話し手や書き手の気持ちを読み取るために、お別れの挨拶を述べる文章を読んで必要な情報をとらえている。（思考力、判断力、表現力等）

3. 気持ちを伝えるために、具体的なエピソードを整理し、まとまりのある文章を書くようにしている。（学びに向かう力、人間性等）

指導計画（全6時間）

第一次 1st Reading 教科書本文の内容・言語材料の理解 2時間

第二次 Deep Read 気持ちを具体的に伝える工夫の理解 2時間（本時 1/2）

第三次 Project 具体的なエピソードを交えながら気持ちを伝える文章を書く練習 2時間

授業について

読む目的の一つに「ただ楽しいから読む」がある。その状況を教室で作ることができないか、授業者は試行錯誤を繰り返してきた。今回授業を行う中学3年生では、1年生から、ウェブ版の Graded Reader のチケットを数か月間導入し、生徒たちは授業の一部であるいは放課後や自宅で好きなものを好きなように読んでいる。

そのような個別の「読み」に対し、教科書は全員共通の「読み」である。ここでは教師がデザインする授業の中で、生徒たちは英文を読む。「楽しく読む」という個人的な営みをデザインすることはある意味おこがましい。しかし全員が読む教科書だからこそ、せめてその可能性を最大限に引き出す工夫をする姿勢を大切にしたい。授業者は、この3年間の試みとして、ストーリーの関連性を意識して教科書を扱ってきた。具体的には状況や場面、そして登場人物の性格や成長に応じた発話の中で表されている、人物の気持ちや言動、および用いられているコミュニケーションスキルに着目し、それが生徒の日常にどのようにかわるかを生徒に問い続けた。今回扱う単元はスピーチ原稿なので本来ならば音声に特化し聞くことによる理解を促す授業展開を行うことがこの単元の本質かもしれないが、今回はこの3年間の取り組みとして「読む」ことをテーマとした授業展開を行う。

本単元では登場人物の1人で中学1年生の4月にアメリカから日本にやってきたという設定になっている生徒が、日本を離れてイギリスへ行くことになり、クラスメイトにお別れのスピーチをする場面を読む。登場人物が日本に来る直前の気持ちから3年間を日本で過ごして学んだこと、感じたことについて語っている。そこに現れる気持ちの変化を読み取り、それを具体的にたどるために中学1年生から3年生までの教科書を読み返しながら、スピーチでは十分に語られていない部分を想像し具体化していく。

題 目 「読み取る」力の育成を目指して—教科書を楽しむ—

本時の目標

1. お別れの挨拶を述べる文章を読んで、気持ちを理解するための必要な情報をとらえている。
(思考力、判断力、表現力等)
2. 気持ちを伝えるために具体的なエピソードを整理しようとしている。(学びに向かう力、人間性等)

本時の評価規準（観点／方法）

1. 登場人物の気持ちを理解するために必要な情報をとらえている。(思考・判断・表現／ペーパーテスト（後日）)
2. 気持ちを伝えるために具体的なエピソードを整理しようとしている。(主体的に学習に取り組む態度／活動の観察)

本時の学習指導過程

学習内容	学習活動	指導上の留意点
○帯活動	多読	読書記録を記入させ、各自の読書歴を残させる。
○前時までの振り返り	教科書の音読	前時までの理解がどのくらい音読にあらわれているか確認する
○Deep Read	登場人物の気持ちの理解	スピーチを図式化しながら気持ちの変化を理解し、各場面の具体的なエピソードとそこにおける気持ちを理解する
○プロジェクトに向けたリレーディング活動	ライティング活動に向けて1年生から3年生までのストーリーを通して読む	
○フィードバック活動	グループで抽出した場面・表現を共有する	
○単元のまとめ		
備考		

実践上の留意点

1. 授業説明

COVID-19 流行の中、オンラインでの交流が増え、直接的な関わりや体験を我慢せざるを得ない状況が続いた。このような状況を過ごしてきた生徒たちが多感な小学校時代にやり残したこと、学べなかったことは少なくないと思われる。その一つとして直接的なコミュニケーションがあるのではと感じつつ、教科として何ができるのか試行錯誤してきた。教科書のストーリーの中で、どのような場面でどのようにすれば円滑なコミュニケーションが取れるのか、また気持ちを表現するためにはどのようにすればよいのか等の視点から問いを立て考えさせることを継続してきた。本単元では「気持ちを読み取る」ことに焦点を当て、授業を行った。

帯活動の多読では生徒が Web 上にある様々な作品を読んでいる。学期ごとのレポートを見ると生徒の興味関心が多様であることがよくわかる。自分の関心や気分に合わせて読みと、教科書を用いた読みをうまく両立させるよう試行錯誤しながら進めている。

前時までの振り返りでは、音読によって生徒がどのくらい本文を理解しているかを確認した。意味のまとまりとしての区切りのほか、人物の気持ちを意識した音読ができるよう指導した。

Deep Read では、気持ちの伝え方に着目し、気持ちを表す表現と具体例を整理させた。また気持ちを伝えるうえでの副詞の働きにも注目し、例えば“basically”という語があるときとないときではどのように意味合いが異なるのかなどについて問いを立て考えさせた。さらに Part 1 の最後の部分に追加して補う表現を考えさせることで、感謝の気持ちを伝える様々な表現を共有した。

プロジェクトに向けたリーディング活動では、中学 1 年生から 3 年生までの教科書すべての本文を読みながら、生徒たちがふさわしいと思うエピソードを取り上げ、登場人物が 3 年間で振り返りながら感謝とお別れの挨拶を学校新聞に書く、という想定ライティング活動につなげることを目標とした。その準備として、2 学期より、教科書にあるストーリーのリテリング活動を帯活動として取り入れ、会話文を説明文の形にする練習を行っている。本授業では英文を読みながらどの場面を取り上げるかの相談までしかできなかったが、その後の授業で生徒たちが書いたものを読むと、学校新聞という設定を意識して個人名を使わない表現にするチームが複数みられた。また「ありがとう」を日本語で入れることで、読み手への敬意を表す工夫をしたチームもあり、これまでのコミュニケーションスキルで学んだことを取り入れようとする姿勢が見られた。

2. 研究協議より

研究協議では、音読、ICT の利用、プロジェクト活動の設定の仕方、について貴重なご意見をいただいた。音読指導については、目的に応じて様々な読ませ方の工夫ができること、そして今回はその読ませ方を生徒に決めさせたことについての質問をいただいた。今回は時間の都合であまり議論ができなかったが、例えば絵本の読み聞かせのように同じ作品を何度も音読する楽しみや、そこから選べる学びについてもさらに検討をしたい。

ICT の利用について、今回は施設設備の点から、電子教科書の利用と問いの提示以外はパソコンを使用せず、生徒は自分たちの考えを紙に書いて黒板に貼るという方法をとった。ICT 機器を使う場面、黒板を使う場面、それぞれに利点がある。それらをさらに精査し、多様な方法を試みたい。

プロジェクト活動の設定について、生徒が自分自身の体験や気持ちを表現することにつなげることが大切ではあるが、今回は教科書 3 年分を読む、という目的から、登場人物になりきって英文を書くという設定を行った。